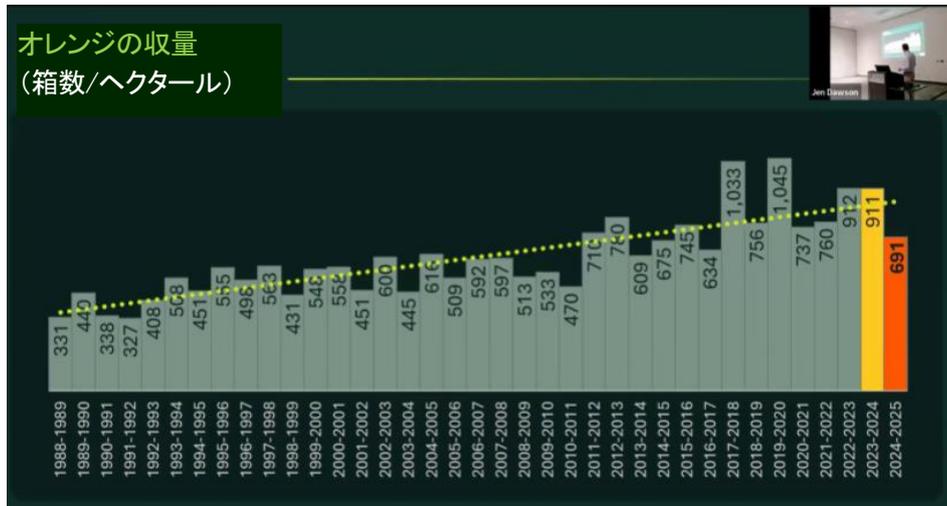


ブラジル オレンジ生産に打撃を与える暑さとカンキツグリーンング病

Citrus Industry Magazine 2024年9月9日

ブラジルの柑橘類栽培防衛財団(Fundecitrus)上級研究員のフランクリン・ベアラウ氏によると、ブラジルの柑橘類栽培は今シーズン苦戦している。これは、同氏が米国のフロリダ大学食品・農業科学研究所(UF/IFAS)柑橘類研究教育センター(レイクアルフレッド市)で行った最近のプレゼンテーションの要点である。(以下「」は同氏の発言)



ブラジルのオレンジ生産量はここ数年全般的に増加傾向にあるが、今シーズンはヘクタール当りの出荷箱数が大幅に減少した。

「今シーズン、ブラジルでは状況が変わった。カンキツグリーンング病(HLB)に関し、フロリダ州よりは少し遅れているものの、柑橘類主産地(シトラスベルト)の一部では発生率と収穫量の減少に関し、この病害の最悪の状況に入ったと感じ始めている。」

ブラジルの主要な柑橘類産地はサンパウロ州にあり、同州はブラジルで生産されるオレンジの約74%を占めている。この国では、9,600人の生産者が約114万エーカー(46万ヘクタール)で柑橘類を生産している。その大部分はオレンジであり、レモンとライムが柑橘類生産量のごく一部を占めている。

「今年のオレンジの出荷量は2億3,238万箱と推定されており、これは昨シーズンより約25%少なく、この30年間で最も少ない出荷量となる。この減少は主に天候に起因するものであるが、一部の地域ではHLBによる問題が増加している。」



緑の丸は2018年以降のHLB発生率を示している。今年は、平均が38.1%に跳ね上がった。一方、ミカンキジラミの個体数(赤い部分)は徐々に増加している。

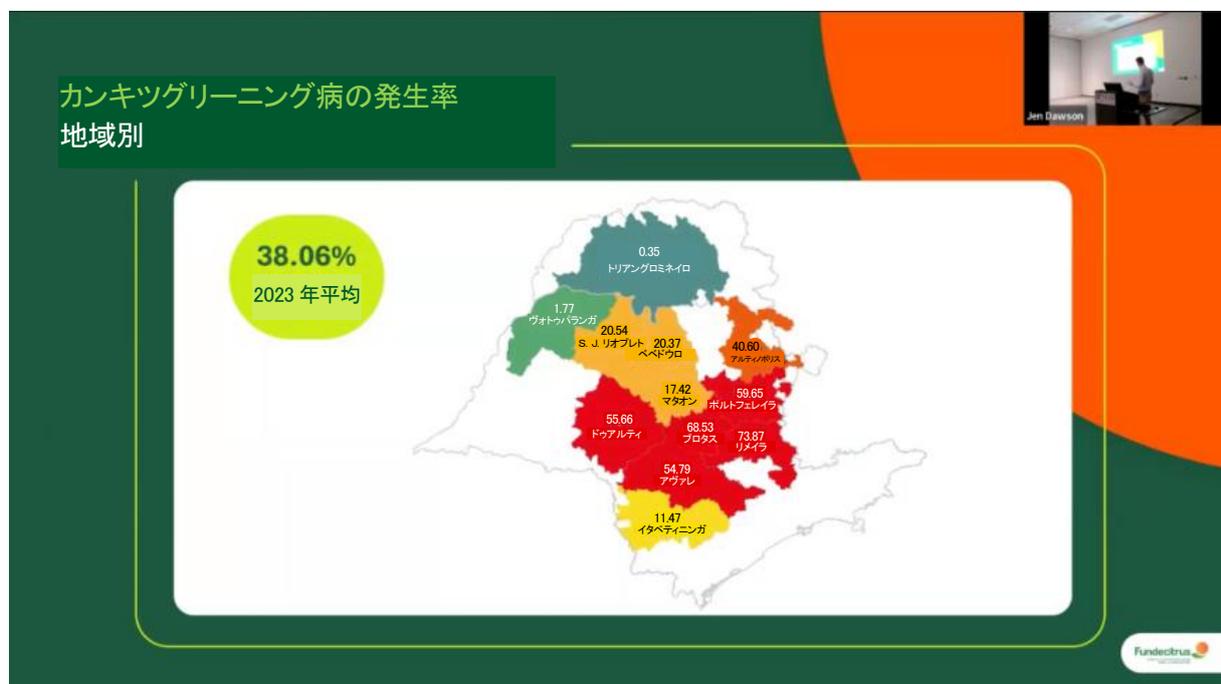
天候の課題は干ばつと暑さによるものである。ベーラウ氏によると、昨年は5回の熱波があり、暖冬であった。

「果樹は大きなストレスを受けており、多くの落果が見られた。ブラジルのシトラスベルトでは約40%しか灌漑されていない。」

シトラスベルトの気候はかなり多様で、HLBの発生率も様々である。この地域の北部では、この病害にとって条件があまり良くないため、発生が少ない。また、北部では少数の生産者が大規模な農場を持つ傾向があり、病害の管理が調整しやすい。

しかし、地域の中部と南部では、この病害はより大きな影響を及ぼしており、それはデータに現れ始めている。2018年以降、ブラジルの生産者は、全体的なHLBの発生率を20%程度にかなり安定的に維持してきた。しかし、2024年には発生率が38%に跳ね上がり、その大部分が中部と南部での増加によるものである。

ミカンキジラミ(ACP)は拡散を続けており、毎年数が増えている。しかし、現在は果樹が干ばつ状態に置かれているため新梢(ACPが卵を産み付ける)が少なく、ACPの個体数は少なくなっている。生産者達は、この害虫を防除するために使用される4系統の化学物質に対するACPの耐性を報告している。ベーラウ氏は、生産者達は現在、薬剤のローテーションと耐性管理を以前よりうまく行っていると述べた。



ブラジルのシトラスベルトの北部ではHLBの発生率がまだ低く(2%未満)、中部と南部では発生率が高くなる傾向がある。

「HLB発生率が最も高いのはシトラスベルトの中部である。現在、若い果樹(樹齢3~5年)の約3分の1が発症している。発症した果樹は生産性が低下することが分かっており、これは憂慮すべきことである。」

一部の生産者、特に北部ではまだ発症した果樹を探して除去しているが、他の生産者、特に発生率が高い地域では、果樹を除去することにうんざりし始めている。

感覚的にHLBの進行が加速しており、データはそれを裏付けている。そのため、ブラジルの生産者は、フロリダ州の生産者がこの病害の影響を緩和するために試みてきたことに注目している。

「落果の状態がフロリダ州で見られるものと似ている場所がある。一部の生産者は、フロリダ州の生産者のように、落果を減らすために植物成長調整剤を使い始めている。」

同氏は、一部の生産者は、病害にとって条件があまり好ましくなくHLBの発生率が低い北部に移動していると付け加えた。

(訳注: 英文の記事では随所で「感染率」となっていますが、他の記事に照らし合わせ翻訳では「発生率」としました。)